

栄光

説教・「新しい生き方」岸俊彦牧師……1
特集・私の愛誦聖句…2
説教・「祝福はすべての人に」久保哲哉教師…5
追悼・多田哲朗兄馬場茂兄……6
西南支区新年礼拝報告…7
長老のファイル…7
牧師の書齋から…8

『新しい生き方』

教 説
レビ記19章17節～18節
ヤコブの手紙4章11節～12節

岸 俊彦

元日、朝日新聞のインタビュー記事で「混迷の時代、私たちは何をよすがに生きていけばいいのだろうか」と問われた恐山菩提寺院代・南直哉さんは答えます。

「世界の様々な悲劇の前に、力不足で何もできないと、もどかしさを感じる人もいるでしょうが、まずは身近でできることをする。その縁がいつか、どこかで世界と結ばれると信じる。それが祈りというものです。」

内田也哉子さんは「おおきな視野で、ちいさなことをする、ってことなんだろうな」と、谷川俊太郎さんの言葉を引用しました。

パウロは、「私たちの父なる神の御心に従って、今の悪の世から私たちを救い出そうとして、私た

ちの罪のためにご自身を献げてくださった」キリストをよすがとしました(ガラテヤ1:4)。私たちのよすがは「天地は滅びるが、私の言葉は決して滅びない」(マタイ24:35)と語ってくださいましたキリストです。

キリストをよすがとする私たちにできることがあります。「きょうだいたち、互いに悪口を言ってはなりません」(ヤコブ4:11)。「悪口を言う」と訳されているギリシヤ語の元々の意味は「上から言う」です。上から目線で相手に物言うことです。そのため「隣人を裁くあなたは、一体何者なのですか」(12節)とヤコブは問い質します。

私たちの上に立つのは主以外にありません。私たちが上に立つと

したら、自らを神とすることになります。「神に背く者たち」(4節)となります。「神は、高ぶる者を退け、へりくだる者に恵みをお与えになります」(6節)。

注意しなければならぬことは、「悪口を言うな」「裁くな」と言いながら、私たちは御言葉を相手を打ち倒すための道具とすることです。まず御言葉によって自らを吟味しなければなりません。

「時は満ち、神の国は近づいた。悔い改めて、福音を信じなさい」(マルコ1:15)とキリストは語ってくださいました。私たちの内にイエス・キリストがいてくださることをしっかりと弁えること(Ⅱコリント13:5)。私たちのために死に、今も生きて共にいてくださるキリストが、兄弟姉妹のために死んでくださった(ローマ14:15)ことを忘れてはなりません。

その上で、御言葉に立って判断しなければならぬことがあります。「裁くな」と言われていても、裁かなければならない現実があります。そのためには、「まず自分の目から梁を取り除く」必要があります(マタイ7:5)。目にあ

る梁(丸太)とは、神に背く私たちの罪です。キリストが贖い救ってくださいました自らの罪を心に留めながら、等しくキリストが贖い救ってくださいました罪が「あなたにもある」と語るのは何と困難なことでしょう。塩で味付けられた恵みの言葉を語ることは(コロサイ4:6)至難の業です。

「裁くな」と教えてくださったキリストが語ってくださいました。「求めなさい。そうすれば、与えられる。探さなさい。そうすれば、見つかる。叩きなさい。そうすれば、開かれる」(マタイ7:7)。「天におられるあなたがたの父は、求める者に良い物をくださる」と約束してくださいました(同11節)。

主を礼拝し、御言葉に支えられ、養われ、導かれる私たちにできること。それは、共に祈り求め続けることです。主が、私たちを捕らえてくださっていることを信じ続けることです。私たちにできる小さなことです。

この年も、主を礼拝し、祈り、賛美し、御言葉に聞き従って共に進みましょう。(新年礼拝説教)

私の愛誦聖句

今年度は教会員の皆さんに

愛唱讚美歌・愛誦聖句のアンケートに答えていただきました。

2月号では、あなたの愛誦聖句をご紹介します。



主の御手の中で
楽しく生きる私

石室裕一

私の愛誦聖句はコヘレトの言葉3章です。

「天の下の出来事にはすべて定められた時がある」

生まれる時、死ぬ時

求める時、失う時

愛する時、憎む時

戦いの時、平和の時

全て人の時間は主の御手の中にある。そう思わずには生きてこれなかった、ということが、長く生きていくときつとあると思います。

教会の先輩方には「君なんてまだ長く生きてはいないよ」とお叱りを受けるかもしれない50代。若者でもなく老人でもない50代。それでもやはりここまでの道のりは長いものでした。

「神はすべてを時宜にかなうように造り、また、永遠を思う心を人に与えられる。それでもなお、

神のなさる業を始めから終りまで見極めることは許されていない」このコヘレトの言葉3章（新共同訳）は、私どもの結婚式の聖書箇所として岸先生が選んでくださった箇所です。

結婚式の直前には、長い間独身であった私の結婚を一番楽しみにしていた父が亡くなりました。亡くなる前の日の夜、その日に撮った、私が式で着るタキシードの試着写真を見ながら「裕一は何を着てもかっこいいな」と父は言いました。何という親ばか発言。ありがたい最期の言葉です。

親戚からは結婚式を延期するよう説得されましたが、私は「今が結婚式を挙げる『時』なのだ」と強く思いました。おとなしい私が一歩も譲らないので、皆驚いて、引いてくれたことをよく覚えています。

主を信じていなければ、主に従っていないければ、乗り越えられないことが、きつとキリスト者の人生にはあるのだと思います。私はきつとこれからも主に手を引いていただき、楽しく生きて行けるのだと信じています。

ヨハネによる福音書16章33節

小田 瑶恵

中高大の10年間、女子校で過ごしました。自分では女の世界を生き抜いた強者のようなつもりでしたが、先生からは温室育ちと思われたようで、節目にはいつも厳しい言葉で送り出されてきました。

高校卒業の際には「君たちはこれから大人までの猶予期間に入ります。きちんと大人になる準備をしないさい。よく考え、賢く生きていける人になりなさい」と言われました。大学の卒業時には「これから君たちは毎日のように『不平等』を感じると思うが、この不平等な社会を何とか生き抜きなさい」と言われました。温室から荒波の中へ放り出すと言わんばかりの言葉が印象深く残っています。

そして、大学卒業前のクリスマスに受洗する時、いただいた聖書には、岸先生の直筆で聖句が書かれています。その前半には「あなたがたには世で苦難がある」と

ありました。初めて聞いた聖句に「岸先生も厳しいな」という印象だけが残りしました。しかしその僅か3ヵ月後に、この聖句への印象が変わる出来事が起こりました。

「あなたがたには世で苦難がある。しかし、勇気を出しなさい。わたしは既に世に勝っている」大学の卒業礼拝の式次第に、あの聖句がありました。偶然とは思えない出来事に、大切な聖句として胸に刻みました。

月日は流れ、昨年春、産後4ヵ月で仕事に復帰しました。普通に働けると思っていたのに、体は思うようにはいかず、突然、喘息とバセドウ病を発症しました。どうして病気になってしまったのか：ショックでした。しかし、毎日当たり前に育児をするし、仕事にもいかなければいけません。社会は厳しく、時々挫けそうになる日もあります。そんな時「しかし、勇気を出しなさい」という言葉に励まされ「わたしは既に世に勝っている」という言葉で「大丈夫だ」と思えることがあるのです。最初は厳しいと感じたこの聖句が今では私の心の支えとなっています。

聖句との出会い

瀧 芳人

私が教会に提出している愛誦聖句は、次の三つです。

- ・コヘレトの言葉3・1
- ・詩編23編
- ・イザヤ書40・31

子どもの頃から、これらの聖句に出会うと、とても気になります。このように気にしていたのは、少しずつ読んでいた聖書に導かれたからなのではないかと思えます。中学生の春、快気祝いとして、牧師から口語訳の聖書をいただきました。この聖書に示された「天が下のすべての事には季節があり、すべてのわざには時がある」「神はまた人の心に永遠を思う思いを授けられた」(伝道の書3・1、11)という箇所にも心が動かされ、色々な思いにとらわれ、これからの人生や信仰について想像しました。そして、「あなたの若い日に、あなたの造り主を覚えよ」(伝道の書12・1)と

の聖句が心に響きました。

受洗して数年後、少しの間ですが、FEB Cの聖書通信講座を受講したことがあります。その講座では、課題の聖書箇所について感想を送信した後、返信をいただきました。ある時、返信に添付された聖書解説文に、「ぜひ覚えてください」と記され、新共同訳の詩編23編が引用されていました。この美しい聖句は、「主は羊飼いで始まり、主に依り頼んで生きる信仰者の幸いが描かれています。いつかは覚えたいと思っていたので、その時を機会に、詩編23編を何度も音読しました。そして、暗唱できるとなると、いつでも立ち返り、慰められる思いがしました。若い頃、毎週、桜新町の教会で、合唱の練習をしていたことがあります。その教会の壁には「主に望みをおく人は新たな力を得：」(イザヤ書40・31)という聖句が大きな筆書きで掲げられていて、いつも励まされ、歌声を合わせて練習していました。

これからも御言葉を大切に、丁寧生きていけますようにと願っています。

私の愛誦聖句

仲山亜砂奈

昨年、愛誦聖句のアンケートで、詩編23編とヨハネの福音書15章16〜17節と回答しました。

私が受洗した時に稲葉美津子さんがお祝いのメッセージと一緒に、詩編23編1〜3節を書いてくださいました。

「主は私の羊飼い。私は、乏しいことがありません。主は私を緑の牧場に伏させ、いこいの水のほとりに伴われます。主は私のたましいを生き返らせ、御名のために、私を義の道に導かれます」

祈りの言葉として愛され、礼拝の招詞や交読で読まれ、よく唱えられてきた箇所です。祖母の葬儀で読んだこともあり、これからも私にとって大切な聖句です。

ヨハネの福音書15章16〜17節は、聖書を学んでいくうちに御言葉として伝わってきました。

「あなたがたがわたしを選んだのではありません。わたしがあなた

がたを選び、あなたがたを任命したのです。それは、あなたがたが行って実を結び、そのあなたがたの実が残るためであり、また、あなたがたがわたしの名によって父に求めるものは何でも、父があなたがたにお与えになるためです。あなたがたが互いに愛し合うこと、これが、わたしのあなたがたに与える戒めです。」

神様が未熟な自分のことも選んでくださったと知って驚きました。心より感謝しています。

先日の内村伸之宣教師の「宣教師が見たウクライナ」という講演会を通して、現地の様子的一端を知ることができました。

ロシアとウクライナの戦争が始まったと聞いてから、1秒でも早く終わるように毎日お祈りしています。なぜ終わらないのだろうと疑問に思っていました。福音を伝えること、御心に適うこと、神様のご計画があるのを改めて感じました。

世界の平和と幸せのためにこれからも日々祈り、歩いていきたいと思っています。

ひとつ覚えの『主の祈り』

圓山野花

幼稚園、小学校の頃の主日礼拝は、神父様であった園長先生のお話もよく分からず、『ごども聖書』のイエス様のイラストの風貌が当時の優しい父によく似ていたので、それだけをただぼんやり眺めて過ごしていました。それでも最後、後になんて唱える『主の祈り』と讃美歌で、イエス様にその一日の全てを受け入れられるような気がして、意気揚々と大きな声を張り上げたものでした。

大人になっても学生時代までは習慣として、寝る前は必ずベッドの中で『主の祈り』を祈る癖がついておりました。結婚し子どもが生まれてからは、子どもを寝かしつける時の儀式として、お互い気持ちを落ち着かせる意味でも一緒に唱えていました。

我らに罪をおかす者を
我らがゆるすごとく、

我らの罪をもゆるしたまえ。

この一節は簡単なようで、とても難しいものです。

「人は忘れる生き物です」という言葉がありますが、私自身も仕事や人間関係で、相手の落ち度や過ちを非難して正論を並べた後、自分が恥ずかしくなることが度々あり、毎日唱えている『主の祈り』の心を忘れてしまうことが度々あります。

世界では、止むことの無い「自衛のための戦争」という名の殺し合いや、某国の大手企業CEOによる、公然と他国民を蔑むような発言などがあります。宗教は違っても敬虔な信仰者が憎しみ合い、殺し合っているのを見ても難しいことは明らかです。

「己の行いは主の御旨にかなうものなのか。驕ることなく謙虚な人でありたい」と、イエス様のように痩せて長髪と髭を蓄えていた亡き父を思い出しながら、主に生かされている命に感謝しつつ、今日も『主の祈り』を唱えたいと思います。

説教

『祝福はすべての人に』

創世記1章1節～2章4節前半

聖学院中学高等学校教諭 久保哲哉

皆さんは、この世界が希望に向かつて良い方向に進んでいると思いますか。それとも、年々、邪悪な時代になっていて、日に日に闇が深くなっていると考えますか。

いますが、それと同時に聖書の世界観、つまり、この世界はいつたいどのような世界なのか。その方向性・性質・存在の本質が描かれている箇所でもあります。

昨今の報道をみると、人間の心の闇の深まりを感じることも多くあります。本当にこれから先の世界が不安になることもあるでしょう。しかし、聖書は最初から最後まで、この世界は主なる神による希望に向かっていると宣言します。創世記の最初をみると、そのことがよくわかります。「初めに

まず「地は混沌として、闇が深淵の面にあり」(1・2)なので、存在することが示されます。この世界には神様がおられるのに、なぜ自然災害が起こったり、罪なき人が災害や悲劇に見舞われるのか。神様の御心がどこにあるのか。私たちに計り知ることができないのはここに根拠があります。

神は天と地を創造された。地は混沌として、闇が深淵の面にあり、神の霊が水の面を動いていた。神は言われた。『光あれ。』すると光があった」(創1・1～3)とあります。ここではイスラエルの人々が世界の成り立ちについてどのように信じているかが記されて

興味深いのは、創世記では人が創造されたときに、神が「良しとされた」という言葉がないことです。このことから、ユダヤ教では古来から、人間は悪に傾倒しやすい存在であると考えられてきました。そのため人間は、神の言葉に従って、主なる神から祝福された

道を歩むことが難しいとされてきました。実際に、最初の人アダムは神の言葉に背いた結果、エデンの園を追放され、その息子カインは弟アベルの命を奪い、その子孫であるイスラエル王国は他国の侵略によって滅びたと見ます。また、

います。この信仰が聖書の最初に記されていることは大切なことです。

新約聖書においても、ファリサイ派の中のファリサイ派パウロは、このユダヤの教えを受け継ぎ「正しい者はいない。一人もない」(ロマ3・10)、「律法によっては、罪の自覚しか生じないのです」(ロマ3・20)と語ります。

イエス・キリストの言葉もそうです。「あなたがたは世の光である」(マタイ5・14)と宣言されたからには、私たちは光の子です。神の助けによって「世の光になりましょう」ということではありません。心が貧しくても、何もできなくても世の光です。だから私たちは幸いです。ここに神の愛が現れています。「神は人を自分のかたちに創造された」(創1・27)のです。主なる神に仕えることでこの世界を極めて良いものとして進むことができます。

しかし、本当に人は悪に傾倒しやすく、滅びの道を進むほかないのでしょうか。創世記では「混沌」と「闇」が語られた後に「神の霊が水の面を動いていた。神は言われた。『光あれ。』すると光があった」(創1・2、3)と続くことに福音が秘められています。この世界は混沌です。闇です。しかし、そこに神の霊が確かに働いています。そして「光あれ」と神が宣言することで、神の言葉が現実となります。神がこの世界は「極めて良かった」(創1・31)とされたからには世界は希望に満ちて

さらに、私たちは主イエス・キリストというまことの光に照らされています。自らの罪を悔い改め、十字架と復活の福音を信じることで罪から解放され、祝福された者として生きることが可能です。私たちは神の祝福を全身に受けているのですから、聖霊の助けによって御言葉に従い、神を愛し、神が極めて良いとされたこの素晴らしき世界を隣人と共に希望を持って進むことができます。

追悼

はじめは将棋の駒から
—共に恵、歩んで—

故・
多田哲朗兄

彼と私の出会いは、将棋の駒から。大山康晴名人署名入りの「運在天」からはじまり、約60年共に過ごしてきました。彼は誠実でやさしく、教養ある文化人です。ただ社会的にも男女の格差がある時代から、私の協力者、理解者で、私を支えてくれました。

将棋のプロ志願の小学生を棋士として誕生させたり、私も将棋の修業に励み、アマとして活躍。その実績を買われ、32歳で日本将棋連盟女流棋士二期生としてプロの世界に。6名からスタートして現在は50年にもなり、有能な実力者がふえています。ですが20年前、日本女子プロ将棋協会を設立し、私は現役生活30年で引退していましたがそちらへ移行。さまざま困難がありました。自由に独自

のイベントなど新開拓でした。ロゴマークはひまわりの花。太陽の方向に咲き、小さな円がだんだん大きく伸びて上昇。三つのわ「和・話・輪」基に人生の喜び、出会いの中で生まれる喜び。その輝かしい将棋界から現在はいきっぱり離れ、日々新たに新天地へと歩んで。

彼は、人事関係、広報、教授などを歴任。ですが自分の好きな活動をたくて退職。川柳の編集長、『人間未熟』などでエッセイ発行。エニアグラムでシスター鈴木秀子氏を知り、KJ法を学び、論語の発表。著述業と講演など多岐にわたり活動する文化人でした。

『人生の悩みに愛の一行詩』発刊。私も『ころの川柳』を彼と共に著するなど、行動的に実行しました。たくさんある路から選び、決断する大切さを学び、今日まで守られてきました。

彼は、甘いお菓子と会話、交友関係も幅広い人でした。糖尿病から脳梗塞を3回、認知症も進みましたがが仙人の如く穏やかな人間性是不変。コロナなどで面会も制限があり、ジャンケンも会話もなく、すべて無になって88歳で旅立って

行きました。すべて良し、幸せな気持ちと恵まれた環境をありがとう。感謝でいっぱい。(多田佳子)

馬場 茂先生追悼

故・
馬場 茂兄

馬場茂兄弟が新年の1月10日早朝に神様の御許に旅立たれました。享年76才でした。12月6日が誕生日で、施設で誕生日をした際、奥様の泰子姉妹の誕生日である1月11日のお祝いを一緒にしようとしていたのですが、その前日の旅立ちとなってしまうました。すでに、声がない状態でしたが、前日に「誕生日まで頑張つてね」という奥様の言葉に、手足を動かされ、声を出そうとされていたので、「愛している」と言いたい」と声掛けすると手足を激しく動かされてうなずかれたそうです。兄弟の最後の言葉は「愛している」だったのです。

馬場茂兄弟は東大工学部を卒業

後、同大で博士号をとられ理工学科の助手を経て、1991年から成蹊大学工学部で教鞭をとられ同大名譽教授でした。真空における表面技術が専門で、半導体製造分野で貢献をされました。

奥様をつうじて、私たち夫婦も長年のご交誼をいただいております。奥様とのつきあいは1976年から現在まで48年にわたります。その間、英語の先生として奥様から私どもの2人の息子、さらに孫4人まで薫陶を賜りました。ご縁をいただき、私どもの長男は大学院で馬場茂先生に指導教官となりました。また、教会のセル会を毎月馬場先生のご自宅で20年にわたり開催していただきました。

人生はだれでも、いつも順風満帆とはいきません。これまでのあいだ、必ずしも、愉快なことばかりではなかったはずですが、妻と私は馬場先生が笑顔でいらつしやるお姿しか思い浮かびません。最後の言葉に象徴される素晴らしい人生を全うされ、神様の御許で今も微笑んでいらつしやることと思います。(稲葉隆二・美津子)

西南支区新年礼拝報告

2025年1月1日午後2時。

昨年まで毎年帰っていた広島は、主である伯母が亡くなってしまったのでそこには帰る家もなく、今年はどうやって新年を過ごすかと考えていた私は、母や息子と年明けをお祝いしてから、足の悪い母や友人と遊びに行く息子を置いて、1人渋谷教会の新年礼拝に出かけました。デパートの初売りも

近年は1月2日からが主流で、渋谷の街は静かで落ち着いた様子でした。日々変貌を遂げている渋谷。昔はそこで働いていましたが、今は迷子になってしまっただろうと、早めに家を出ました。しかし渋谷教会のホームページの丁寧な案内のおかげで、迷うことなく無事に到着することが出来ました。ビルに挟まれた教会はなんだか昔読んだ絵本『ちいさいおうち』のようでした。絵本みたいに、周りが変わっても教会はそこに変わらずある、そんな感じでした。

礼拝が始まりました。司式は聖ヶ丘教会の藤井清邦牧師、説教は駒場エデン教会の川村尚弘牧師、

聖餐式は渋谷教会の藤村和義牧師です。テモテへの手紙Ⅱ4章1〜5節。「御言葉を宣べ伝えなさい。時が良くても悪くても、それを続けなさい」、「自分の務めを全うしなさい」と、説き明かしを受けました。

今、世界は混沌として、悪い方に向かっているのでしょうか。しかし時が悪くても歩みを続けること。毎日の小さな幸せや美しいことを探して、伝えて歩むこと。美しいオルガンの響きと、素晴らしい会堂の音響効果と、参加者の（おそらくほとんどがキリスト者の）力強い歌声に励まされ、年末年始のぼんやりした頭に大きな鐘が鳴り響く思いがしました。日本にはキリスト者が本当に少ないけれど、こうして知らない顔ばかりの知らない教会には、確かに同じ神を信じ、平和を祈る仲間がいる。自分の務めを全うして力強く歩み続けることで、多くの恵みが与えられるのだな、と心新たに新年礼拝を後にしました。来年は車で、母も一緒に来られると良いな、と思いつながら。（牧内美和）

長老のファイル

新しい年、大きな変化の年が始まり、集大成、振り返りの時期に入りました。各委員会、各会でも総会の準備などを始めていることでしょうか。長老会も通常の年度まとめと併せ、牧師交代に伴う沢山の課題があり、臨時に長老会を開いて対応していく必要があります。主の指導を祈りつつ心して取り組んでいきたいと思えます。

新しい牧師館が完成しました。ワクワクしながら内覧。古い物は柱2本しか生かせなかったということでしたが、改修とはとても思えないピカピカの牧師館です。この『栄光』の発行時には松谷祐二先生ご一家が引越されていることでしょうか。ずっと待ち望んでいた受洗者も与えられ、この変化の時に、主のお恵みと励ましをいただいたことを心から感謝します。教会内のパソコンの配線工事等、着々と教会の整備が進められています。在任中に様々な事を整理し、整え、出来るだけ良い状況で松谷先生に引き継ごうという岸先生の

強い思いを感じます。あと2ヶ月で岸先生が経堂北教会からおられなくなることは寂しく、夢のようにすら感じます。先生は長老会でも再三「送別会はやらないで欲しい」とおっしゃいます。なるべくみんなに負担をかけず、静かに隠退し、後はつくばから祈りをもって私たちの歩みを見守る、そんなお気持ちなのでしょう。今後も相談に乗ってくださいますか？と尋ねると「4月からのことは松谷先生と長老会が決めていくこと」とはつきりと線を引かれます。

それでも42年間教会のために働かれ、私たちそれぞれの喜びの時も悲しみの時も苦しい時も、人生の節目に立ち会い、礼拝を通して主の御言葉を取り継ぎ導いてくださった先生、恭子夫人のお働きに重さを感じます。皆さんそれぞれに沢山の思い出があることでしょう。良い形で感謝の気持ちをお伝えし祈りをもってお送りすることが出来たなら、その時私たちが教会の大きな節目を乗り越え、前を向いて新たに歩めるのではないかと思います。どうぞ良い時が与えられますように。（小嶋幸子）

牧師の書齋から

牧師館が完成しました。外枠を残しながら内部の全面改修工事を行ったのは、敷地に対する容積率が法律上限の1倍半あり、解体したら建て直すことができなかつたためです。20年以上前に中長期委員会では会堂建築を検討した段階で明らかになりました。そのためエレベーターの塔屋を建てることもできません。規制が緩和されるだろうとの発言もありましたが、地

震のたびに規制は厳しくなりました。環境問題もあり、この4月から一段と厳しくなります。

そのことを知ったのは、牧師交代（2024年度末）に備えて牧師館改修工事について相談した業者によります。2001年私たちが一家が牧師館に移った際、40年弱経った牧師館の内装、風呂場、エアコンの交換をしました。その後白蟻が以前の増築部分に発生し、外壁と屋根を新しくしました。それを担当した業者に今回も依頼しました。そのきっかけは昨年10月

のネズミ駆除をお願いしたことにあります。20年の付き合いのある建築士です。20年前の現場責任者が今は部長となっているとのこと、連絡をとってくれました。

4月から打合せが始まり、9月着工となりました。臨時教会総会を昨年5月に開催し、予算2千910万円が可決承認されました。最終的に牧師館改修工事に要した費用は2千890万円でした。これにアパート代、交通費、光熱用水費などで百万円ほどを要します。申請中の省エネなどの公的補

助2百万円をあてにしています。教会員の皆さんの日頃の献金の積み重ねで、新たな募金をすることなく賄うことができました。ありがとうございました。

大工さん（工務店の社長）が、改築が進むたびに説明してくれました。「古い柱は2本だけ残して、天井を高くして空間を広くし、断熱と耐震に優れた建物にした」と。「よく住んでいましたね。住みやすい牧師館にしましたよ」と言ってくれました。もっとも私は住みませんが。（岸 俊彦）

個人消息



掲示板



○降誕節第9 主日礼拝

2月23日(日) 午前10:15

説教 大澤みずき教師

編集後記



▽スギ花粉が飛散し始め、鼻水と目や肌のかゆみが止まりません。今年は例年の2倍以上の量になるそうですが外出しないわけにはいかず…。春まで我慢の日々です。（酒井）

「栄 光」2025年2月号

日本基督教団 経堂北教会

〒156-0051 東京都世田谷区宮坂3-21-11

電話：03-3428-5029 / FAX：03-3428-5038

牧師：岸 俊彦

編集：栄光編集委員会

Email：kyodon@nifty.com

HP：http://kyodokita.life.coocan.jp